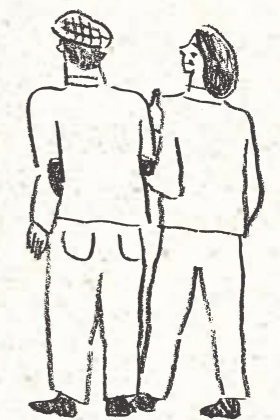
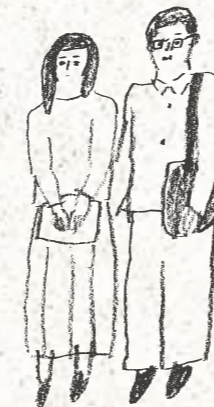
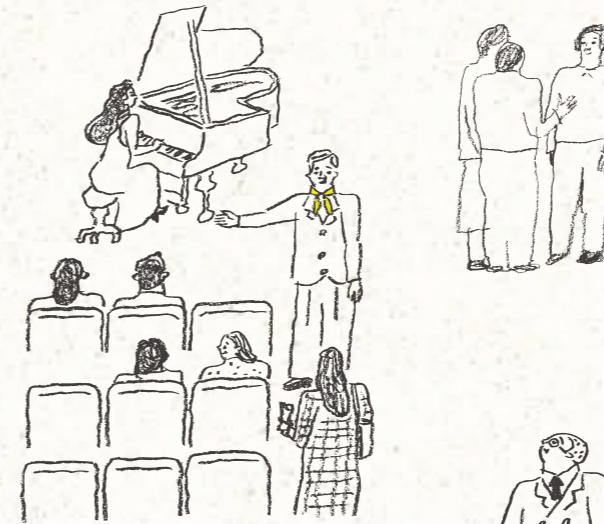


とよかわ
舞台公演
実行委員会
こりんぐ

10周年記念誌



発行:とよかわ舞台公演実行委員会 こりんぐ/豊川市文化のまちづくり委員会/豊川市
デザイン:tami graphic design.
イラスト:エトユニグラフィック

事務局:豊川市市民部文化振興課(豊川市文化会館内)
〒442-0841 愛知県豊川市代田町1丁目20番地の4
TEL:0533-84-8411 FAX:0533-84-8412

MAIL:toyokawa.stage@gmail.com(とよかわ舞台公演実行委員会 こりんぐ) 2024年3月



最新の活動情報は
こちらで発信しています

ごあいさつ

とよかわ舞台公演実行委員会こりんぐは、この度おかげさまで10周年を迎えることができました。これもひとえにこれまで支えていただいた関係者の皆様や、公演を観に来ていただいた多くのお客様のおかげと心より感謝申し上げます。

当委員会は2013～2014年に行われたワークショップ「みんなで舞台公演をつくってみよう!～企画から本番まで～」をきっかけにスタートしました。その後、おもに文化会館のホールでの公演を企画して開催してまいりましたが、2017年からはもっと気軽に文化会館に来ていただけるようにと、年一回のロビーコンサートの企画も開始。また2019年の『テーブルシアター』ではホールを飛び出して赤塚山公園や大橋屋など市内5カ所での公演を開催し、さらに2023年の『あっちこっちde門前ズ!?!』では事前の3回のワークショップを経て豊川稲荷門前を会場として公演を行いました。

思えば年々、企画する公演の難度が上がってきているような気もいたしますが、いろいろと準備などたいへんな分、より皆様に楽しんでいただけるような公演ができたのではないかと自負しております。

これからも、私たちでなければ思いつかないような公演、そして何より私たち自身がおもしろいと思う公演を企画して多くの皆様に楽しんでいただけるよう頑張っけてまいりますので、今後とも変わらぬご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。



委員長 藤井 邦夫

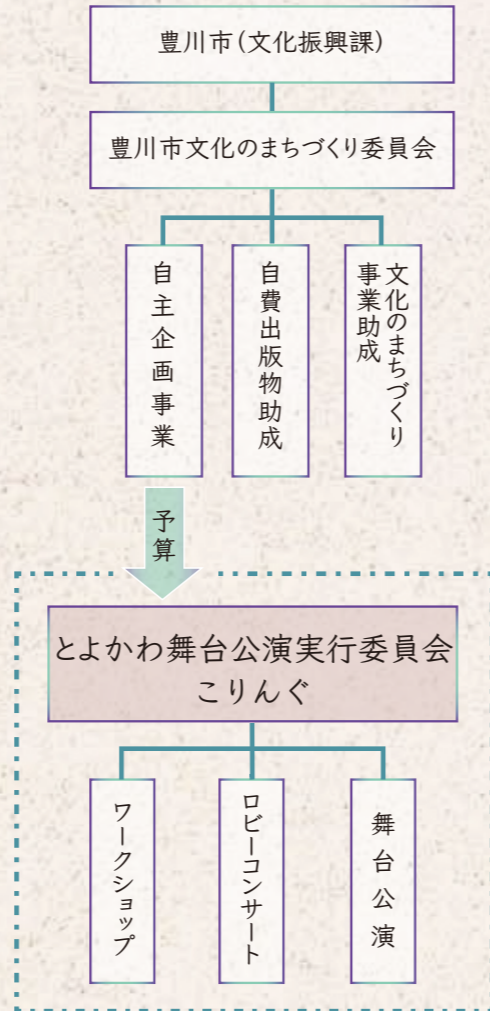
とよかわ舞台公演実行委員会 こりんぐ とは?!

とよかわ舞台公演実行委員会 こりんぐは、豊川市民や地域のために、舞台芸術公演やワークショップを企画・制作・運営する市民ボランティア団体です。

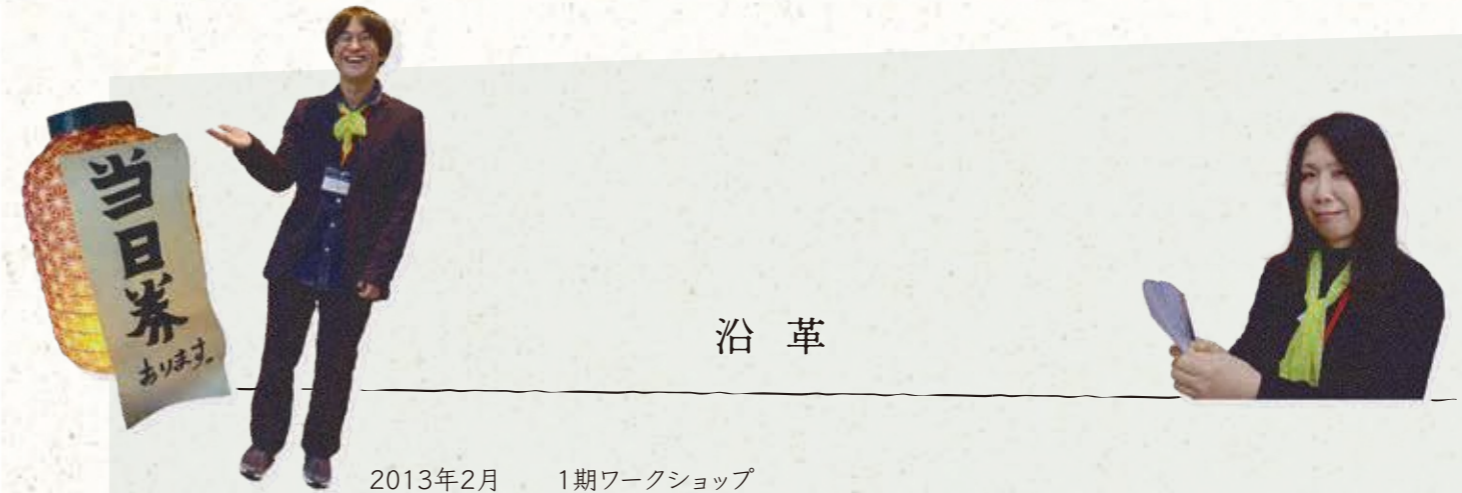
公募で集まった20代～70代の市民ら約15名が活動しています。2012年、豊川市は、文化事業実施の知識・ノウハウ・人的ネットワーク継承のため、市民らを公募し、月2回の研修を2年間にわたり実施しました。

研修の集大成として取り組んだ公演をきっかけに、有志が残り、以降も年2回程度のペースで、舞台芸術公演を企画・制作・運営し続けています。

豊川市が設置する「豊川市文化のまちづくり委員会」と協働し、『とよかわ文化芸術創造プラン』に掲げられた「センター機能」実現の応援団として活動を続けています。



沿革



2013年2月～2014年1月 1期ワークショップ
「みんなで舞台公演をつくってみよう!～企画から本番まで～」

2014年1月～2015年3月 2期ワークショップ
「公演をつくってみよう!～企画から本番まで～」

2014年1月 『ハンド・シャドウズ・アニマーレ』 劇団かかし座

2015年1月 『栗コーダーカルテットファミリーコンサート』 栗コーダーカルテット

10月 『清塚信也 ピアノリサイタル』 清塚信也

2016年6月 『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』 木ノ下歌舞伎

2017年3月 ロビーコンサート『花宵 folk song night』 フォークソング研究会 CLUB FOLK

9月 『ワヤン・グリッ バリ島の影絵人形芝居』 ワヤン・トゥンジュク梅田一座

2018年7月 ロビーコンサート『宵闇怪談ないと～和楽器と朗読と～』 音弥、清水睦子

2019年3月 『平田オリザ演劇展vol.6「隣にいても一人」忠臣蔵・OL編』 青年団

7月 『三びきのやぎのがらがらどん』 テーブルシアター

12月 『土神と狐』 テーブルシアター

2020年1月 ロビーコンサート『オルガネット演奏と宮沢賢治の朗読』 三浦つねお

11月 『ギラ・ジルカ JAZZ LIVE』 ギラ・ジルカ

2021年8月 ロビーコンサート『HIKARU きらっと★星に願いをコンサート』 HIKARU

2022年2月 『三人姉妹』 劇団そばえ

7月 ロビーコンサート『Nancy+なんしい&青い花二胡女子楽団織姫コンサート』 Nancy+なんしい、青い花二胡女子楽団

2023年3月 『あっちこっちde門前ズ!?!』 門限ズ、一般公募のワークショップ参加者

7月 ロビーコンサート『ガムラン・アングルン演奏会』 サリ・プティ

2024年2月 『SILENT FILM LIVE in 豊川』 鳥飼りょう





2014年1月26日(日) @ウインディアホール
『ハンド・シャドウズ・アニマーレ』
出演:劇団かかし座

手影絵のパフォーマンスの素晴らしさに魅了されたメンバーが劇団に電話をしてスタート。実際に劇団の方が豊川まで事前説明に来てくださり、期待が膨らみました。物語性のある演目もありましたが、手影絵の魅力を存分に味わうことのできるアニマーレを選びました。その演技は素晴らしく、大盛況に終わりました。

2016年6月18日(土) @ハートフルホール
『義経千本桜 -渡海屋・大物浦-』
出演:木ノ下歌舞伎

歌舞伎の演目をパロディではなく現代演劇として上演するという内容に興味をひかれお願ひしました。団体も10周年ということで前向きに検討していただきました。愛知県芸術劇場とも連携し、県内ツアーも実現。事前に下見に行くことができ、期待が膨らんだことを覚えています。



テーブルシアター

『劇場で体験できるライブ感をそのままに、どこでも気軽に体験できる。』

小さなカバンから出てくる様々な装置によってテーブルの周りが舞台として立ち上がってくる面白さ、俳優の生身の演技によるエネルギーを間近に感じられる公演として、ホールを飛び出して市内の様々な場所を会場としてお借りして開催しました。「豊川にこんなステキな場所があったんだ」と感嘆の声も聞かれました。



2019年12月14日(土)・15日(日)
@長慶寺、千両宝辺、大橋屋
『土神と狐』
出演:本多麻紀、森山冬子、若宮羊市



2019年7月6日(土)7日(日)
@赤塚山公園、千両宝辺、
子ども食堂(ひまわりキッチン/諏訪神社)
『三びきのやぎのがらがらどん』
出演:三島景太、吉見亮、永井健二

2020年11月29日(日) @ウインディアホール
『ギラ・ジルカ JAZZ LIVE』
出演:ギラ・ジルカ



新型コロナウイルス感染症の十分な対策が必要とされたので、武豊ゆめたろうプラザの「ギラ山ジル子」コンサートを委員会メンバーで観に行き、主催者に感染対策について説明を受けて参考にしました。観客はマスク着用で検温・手指の消毒、ホール定員の半数の客席で一つおきに着席、空いた席にはいなりんの表示を置くなどの対策をしました。



2023年3月5日(日) @三明寺、豊川稲荷表参道
『あっちこっちde門前ズ!?!』
出演:門限ズ、一般公募のワークショップ参加者
(古宿地区市民館、オリエント楽器豊川店にてワークショップを実施)



豊川稲荷の表参道を中心に繰り上げられる、まちなかパフォーマンス企画を行いました。音楽家の野村誠、ダンサーの遠田誠、演出家の倉品淳子、アーツマネージャーの吉野さつきの4名からなる異ジャンルコラボバンド「門限ズ」が豊川初上陸。一般参加の出演者や関係者たちを「門前ズ」と命名し、ワークショップで制作したパフォーマンスを、お寺やお土産店の軒先などで繰り上げました。商店街の人々、アーティストと出演者やお客さん、子どもから大人、国籍、あらゆる境界線を越境。豊川稲荷で多種多様な人、文化が混ざり合うプロジェクトとなり、まちが劇場となる特別な体験を共に作りあげました。



木ノ下さんと多田さんの貴重なツーショット。
今でもお会いすると思えば出話に花が咲きます。



こりんぐ10年間の歴史で、
思い出深い活動をご紹介します…
パート2(写真編)



360度ぐるっと楽しめる影絵芝居に興味津々!



市指定文化財の持つ空気とあいまって
格別の上演となりました。



豊川市文化会館大ホールの舞台上に、
巨大な客席が出現!?



裏では影アナもこなしています。ドキドキ…



公演を盛り上げるためにコツコツ手作り。
何気に楽しい作業です。

●とき:2023年11月25日(土)13:00~15:00

●ところ:豊川市音羽文化ホール(ウィンディアホール)大会議室

第1部

こりんぐの10年を振り返る報告会

第一部ではまず、豊川市市民部文化振興課長の林弘之さんより、とよかわ文化芸術創造プランを行政と市民と一緒に作り上げるようになった経緯と、今後の期待が語られました。

続いて、公演を担当したメンバーが順次、当時の様子を報告。語りにも熱が入り、当時の思い出がよみがえるひとときとなりました。



第2部

パネルディスカッション

第2部のパネルディスカッションでは、4名のゲストの方々に、とよかわ舞台公演実行委員会 こりんぐのこれまでの活動と思い出について、お話しいただきました。



佐藤 美子さん
元 豊川市文化会館等館長

最初にお話しいただいたのは、元豊川市文化振興課職員の佐藤美子さん。佐藤さんはとよかわ舞台公演実行委員会 こりんぐの大元となる、文化芸術創造プランの立ち上げにご尽力された方です。文化芸術創造プランスタートのきっかけは、行政の職員はローテーションで異動があるという点でした。担当職員が変わってしまうと、せっかく積み上げたスキルが途絶えてしまうことを問題視しており、「誰が見ても同じような形で文化政策を進めていける、バイブルのようなものが

必要」との考えから、文化芸術創造プランを立ち上げたそうです。人が変わっても続けていける文化芸術創造プラン作成のためには、行政の力だけでは不十分。市民と市職員、そして市の財政が一体となった文化芸術創造プランを作ることが重要だと考え、現在の形になっていったとのこと。

こりんぐが10年続いてきた理由の1つは、行政と実行委員会がそれぞれの弱みをカバーしてきた点にあると、佐藤さんは語ります。行政にはない、実行委員会のすばやい行動力や、情報収集力に助けられてきたそうです。「10年続いていることが本当に嬉しい。皆さんを誇らしく思います。」とのコメントをいただきました。

続いてお話しいただいたのは、愛知県芸術劇場の林健次郎さん。文化振興課主催の「公演をつくってみよう!」ワークショップでは、計45回講師を務めていただきました。林さんは過去に、文化ボランティアの運営経験があったものの、市民と対等な立場で

林 健次郎さん
愛知県芸術劇場
広報・マーケティング部長



協働し、自律的・持続的な活動につなげていくことの難しさを感じていたと振り返ります。豊川市ではパワーアップした市民活動を目指し、あえて委員会参加のハードルを上げたそうです。「志の高い人に集まって欲しかった。ワークショップの回数や頻度、課題の要求度はとても高かったと思います。」と、当時を振り返ります。

講師としては、主に舞台制作のノウハウについて研修。その際、他の研修講師が言わなさそうな次の2点について強調したそうです。1つ目は、市職員に大きく依存せず、分担して両輪で進むこと。2つ目は、税金を使うことの意味を考えること。また、企画内容については、財政的に持続可能となるよう、「①出演者はプロ」「②入場料は有料」と決めたそう。大事なのは、出演者のための発表型ではなく、来場者のための鑑賞型であること。また、「自分たちがやりたいことではなく、市民が求めていることをみんなで考えました。」とお話しいただきました。

続いてお話しいただいたのは、当時の知立市文化会館「パティオ池鯉鮒」の企画制作者として活動されていた、品川佳代さんです。品川さんには講師として、企画政策論の研修をご担当いただきました。10年前の講義に、やる気のある少数精鋭が集まっていたことが、この10年続いてきた秘訣ではないか、と語ります。実行委員が実際に色んなところへ足を運び、「この人たちだったら、お金を払ってでも観に来てくれる」という市民プロデューサー感覚で出演者を選んでいる点に感心したそうです。また、研修では、記録に残しておくことの大切さを伝えたそうです。記録があることで、次世代へのバトンタッチができる。これを守ってくれたからこそ、10年続いたのだと思う、とコメントがありました。



品川 佳代さん
アンフォーレ(安城市)
コーディネーター

最後にお話しいただいたのは、愛知大学の教員・吉野さつきさん。大学ではアートマネジメントなどについて教鞭を取っています。また、「門限ズ」のメンバーでもあり、昨年のもちなかパフォーマンス企画「あっちこっちde門前ズ!」にも参加されました。吉野さんは出演オファーを貰った立場として、第1部での活動振り返りを聞き、「この10年の厚みがあったからこそ、『門前ズ』ができたんだな」と思ったそうです。「あっちこっちde門前ズ!」開催の折、トラブルに見舞われた際の、実行委員会の臨機応変さに驚いたのだとか。あの時の実行委員会の意思疎通力と察しのよさは、10年間の経験値だったのかと感心していました。

また「観に行きたいけれど、行けないという人にも来てほしい、ある種の欲が、ホールを飛び出して街中で、しかも観るだけでなく一緒に作るというところまで来てしまった。これはもうプロがやっていること。」と、吉野さん。豊川市のような規模の市の市民活動で、ここまでの人材が育っていることは全国的にも珍しく、凄いことだ、と評価をいただきました。



吉野 さつきさん
愛知大学文学部教授



ここまでのゲストの皆さんの発言を受け、ここからはフリートークとなりました。

元行政の立場から、「この組織を維持するために、この先もボランティアに頼るのはどうなのか」と語ったのは、佐藤さん。文化コーディネーターを雇うのか、組織の中から発生させるのか、どちらにせよ行政がどのように支えていくかが大事だと話していただきました。

続いて、10以上の自治体で文化振興プランの策定に関わったという林さん。「この実行委員会と文化のまちづくり委員会とは、実質的にアーツカウンシルの機能を果たしている。この仕組みを10年以上前に考えた豊川市は凄い。」と林さん。ただ、市民ボランティアでは現状が限界であり、行政との両輪という仕組みをさらに強化する必要があるのでは？とのことでした。

吉野さんは「自分が楽しい、面白いと思うから人にも勧められる、アートマネジメントの原点を感じた」そうです。「市民の中から専門家が生まれ、後輩を育成できることは素晴らしいこと。ここから全国で教える人が出てきてもおかしくない。活かさないのはもったいないですよ!」と話しました。

吉野さんのコメントを受け、佐藤さんは「芸術は、お金があって暇な人の贅沢品だという位置づけだったものから、現在は人生に不可欠なものという価値観に変化した。文化芸術は、孤独に陥りがちな人たちを社会と繋げる役割を担える。」と語りました。

最後に、司会を務めた「こりんぐ」メンバーの平松より、「今日お話しいただいたような課題があるということは、まだ進化できる、続けられるということ。『こりんぐ』や文化振興全体にもっといい影響があるといいなと思います。」とコメントがあり、報告会が締めくくられました。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。



ライター：民田瑞歩



『とよかわ文化芸術創造プラン』を達成するため



『とよかわ文化芸術創造プラン』(2012年策定)の5つの基本方針の一つである「すすめる」において、「総合的な文化政策を展開、推進を担うシステムの構築」が取組みとして掲げられました。具体的には、「センター機能の構築」と「文化コーディネーターの育成」が示されました。

こりんぐは、プラン実現の応援団として、10年以上にわたり自主的かつ主体的に活動するとともに、メンバーの入れ替わりを経ながら、知識・ノウハウ・人的ネットワークを蓄積・アップデート・継承してきました。

プラン実現のためという目的意識、市民による市民のための事業展開、行政との連携等を変えることなく継続できるのは、実状を踏まえた同市のプラン設計とプラン推進力によるところが大きいと言えます。

『第2次とよかわ文化芸術創造プラン』(2022年策定)では、センター機能の5つの機能と4つの課題を整理した上で、2032年までに、「センター機能」を中間支援団体として組織化することを目指し、「センター機能の拡充」が計画として盛り込まれています。

